

津軽の冬の風物詩となっているストーブ列車が、今年も運行を開始しました。12月1日(日)には、一番列車出発セレモニーが津軽五所川原駅で開催されました。セレモニーでは三味線演奏会のほか、一般の乗客を交えたテープカットも行われました。車内では、ストーブの上でスルメが焼かれ、スルメをつまみにお酒を楽しむ方もいました。

ストーブ列車は、昭和5年(1930)の冬から始まり、以来、県内外の多くの人から愛されてきました。そんなストーブ列車を運行する津軽鉄道は、乗客数が伸び悩んでいる状況です。長きにわたって、住民の足として地域を支えてきた津軽鉄道。年末年始や冬休みは、家族や友人と乗車して、レトロ車両のノスタルジックな雰囲気を楽しんでみてはいかがでしょうか。



世界に羽ばたく人づくり

薄市小がメタバースを活用した国際交流を行う



薄市小6年の代表者3名が国際教育の推進に関する連携協定を締結したフィリピンのセント・ラ・サール大学附属小学校、大阪信愛学院小学校とメタバースを活用した国際交流を12月2日(月)に実施しました。

メタバースを活用したネット上でフィリピンと大阪と中泊町薄市小がつながり、英語のクイズやダンスなどでコミュニケーションを図りました。

北島^{はる}さんは「緊張したが、画像クイズが楽しかった。コミュニケーションを

とる時には、普段のメタバースの成果を発揮できた」と話しました。

来年度には、町内全ての小・中学校でメタバースによる英語教育を開始し、将来的には進学の際の選択肢としてフィリピンへの留学を考えることができるよう、世界に羽ばたく人づくりを進めていきます。

